一言コラム　おなじ破片でも…

割れた皿の破片は、燃えるゴミにも出せない厄介者ですが、遺跡から出土したものとなると話は別です。この破片が見つかったのは江戸時代に市内中心部を治めた竹谷松平家の陣屋の跡地。しかも明の時代に中国の福建省で焼かれた染付大皿だということが分かります。当時、こうした輸入陶磁は庶民には手の届かない貴重品でした。どんな経緯で中国から蒲郡に渡ってきたのだろう？なんて想像するとロマンが膨らみます。

何気ない皿の破片から多くのことが分かるのです。小さい破片、侮れません！

来秋 企画展
「小さな欠片から（仮）」
公開予定！

博物館 Museum

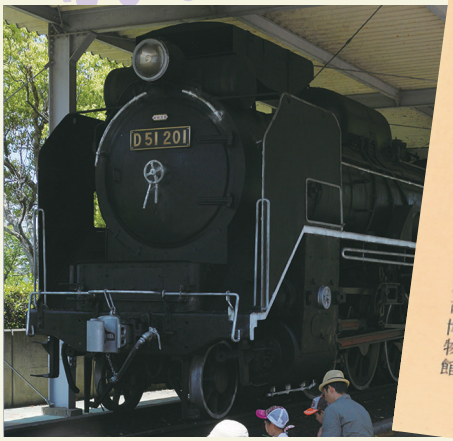
☎68-1881

合格のお守り、配布します

機関車は急な坂道を登る時に砂を線路にまき、車輪がすべって空回りするのを防ぎます。試験合格のお守りとして、機関車の「すべらない砂」を無料で配布します。

※先着 500 人・1 人 1 点

とき　12 月 18 日(水)～ 25 日(水)



竹島水族館 Aquarium

☎68-2059

館長のひとりごと

小林龍二

世の中には約3万種類の魚たちが水中で暮らしていると言われています。その中には滅多にお目にかかれないマボロシの魚や、超高級魚など、さまざまなものが存在しますが、今、私が最も飼育して展示を成し遂げたい魚は、ジンベエザメでもマグロでもなく蒲郡ではおなじみの「メヒカリ」です。

なんでまたメヒカリなんて、そんなもんスーパーに行けばあるじゃないか、展示しなくてもから揚げでおいしいじゃないか、と市民は笑って言うかもしれない。ちょっと待っておくれ。冷静に考えておくれん。「生きたメヒカリ」を見たことがあるだかん。ほら、ないだら。

現在メヒカリを生きて展示しているのは地球上でおそらく福島の水族館しかない。これが悔しい。メヒカリは水深200メートル以深の深海に住み、ウロコが剥がれやすくて弱い。200メートルというとボンベを背負って行ける場所ではない。漁師さんたちに聞くと、網に入って船にあがってきた時点でほとんど死んどるなあ、とのこと。しかし、まれに奇跡的に生きているものがあり年に1回あるかないかで水族館までたどりつくことがあります。しかし状態は良好ではなくその日のうちに息絶えてしまいます。悔しい。有名でおいしいメヒカリを水槽に泳がせるのは夢であり挑戦となっています。